

ガンジス川



「してはいるは さしてもらつてはいること」

前住職

足場がないと立てません。今ここに立っているのは自分の力で立っているように思いますが、立たせてもらつてはいるのです。足元に足場がなければ立てません。今この世に生まれてることと、寿命が尽きたら必ずこの世を去らねばならぬことは全てのいのちに共通しています。しかし人間と他の動物との差の一つは、寿命のある間にもらった「いのち」をどう使うかを、わが身に問うて生きるところにあるように思います。

私たちは死ぬまで自分を中心にして生きます。何事も自分の思うようにしたいのですから、欲も尽きることはありませんし、思うようにならないとイライラして怒ってしまう。意識の上に現れていなくても、自分の得になることや、楽になることばかりを追い求めて振り回されている毎日です。そこには自分がこの世を去ることも、みんなと別れる日が来ることも眼中にはありません。わが身の現実を忘れて欲を追求する

るお恥ずかしい日々ばかりの者を凡夫といいます。

「どこまでも自分中心ですから、何をしても「私がした」の心が先に出てその成果を求めます。また他人に何か善いことをした場合も「〇〇〇してあげた、してやった」と思う。やっかいなことに、「してあげた」という思いはいつまでも心に残っています。相手の反応次第では「してやるのではなかつた」と虚しくなることもあります。そうなると努力も、せつからく良いことをしたことも自分の喜びにつながらない。その結果は「して損をした、してあげるのではなかつた」となる。これは残念なことです。

自分の人生において最も重要なことは「人間に生まれてよかつた。有難う」とうなづける今を生きているかどうかのように思います。このことを如来さまは教えてくださいます。「した」とか「してあげる」は自分を中心に戦いを繰り広げているからです。「この世は自分の都合のよいように動いてはいない」と如来さまはおおせられます。

有る人が言いました。「私が辛抱しているから、家の内はうまくいっている」と。

これを聞いてお念佛を喜んでいる一人の信者が言

「どこまでも自分中心ですから、何をしても「私がした」の心が先に出てその成果を求めます。また他人に何か善いことをした場合も「〇〇〇してあげた、してやった」と思う。やっかいなことに、「してあげた」という思いはいつまでも心に残っています。相手の反応次第では「してやるのではなかつた」と虚しくなることもあります。そうなると努力も、せつからく良いことをしたことも自分の喜びにつながらない。その結果は「して損をした、してあげるのではなかつた」となる。これは残念なことです。

われた。「みんなが辛抱してくれているから、うちの家はうまくいっている」と。

どちらの人があ「ありがとう」と自分の人生を受けいれていますでしょうか。「する」ではなく「さしてもらう」の道は如来さまのおおせです。

九十歳になられた女優の草笛光子さんはインタビューで言われています。「九十歳はまだまだ新しいことに挑戦できる年です。これからも新しい出会いがあつた時にいつでも飛び込めるように準備しておかなければ、と思います」と。

「家族にも、お客様にも、一緒に仕事をしてきた方々にも、今までたくさんの〈ギフト〉（支えてもらったこと）をいただいてきました。だから今の私がある。そしてみなさまにいつでも何か差し上げられる自分でありたい。一生勉強だなと思っています」と。

「散る時が 浮かぶ時なり 蓮の花」という有名な句があります。「散る時」とは死ぬ時です。「浮かぶ時」とはお浄土の蓮の花に生まれる時のことです。



花まつり

令和六年四月四日（木）いたやど保育園の年中さん、年長さん合わせて三十五人と門信徒さんのお子さんがお参りしました。花御堂に甘茶をかけて、いただけの由来を聞きました。そして、本堂で大学生から仏教童話「共命鳥」について読み聞かせしてもらいました。大スクリーンに投影した絵本を見た後、内容についてのクイズをみんなで考えました。

あらゆる縁によって世界はできている。お互いを大切にすることの素晴らしさを仏教的にお話できたと思います。折り紙のプレゼントやお菓子など

も用意し、また大人も子どもも楽しめるように色紙に仮面を書いて彩色をしました。世界に一つだけの仏さまを描いて記念に持ち帰りして頂きました。とても楽しくお釈迦様のご生誕をお祝いすることができました。



信行寺門信徒会総会

四月二十二日（土）に門信徒会総会が行われました。昨年度の活動報告及び会計報告、今年度の活動計画案と予算案の報告が行われ、承認されました。今年度の予算には、信行寺維持費より信行寺の外壁塗装工事費への寄付五十万円が承認されました。信行寺が建立されて初めての外壁塗装となります。五月末には工事も終了しきれいに明るくなりました。是非お参りください。今年度も皆様のご参加、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

また今年も、総会の出席記念品として、役員の多田清子様より手作りの焼き物をいただきました。ありがとうございました。ありがとうございます。



「縁とは

遠藤 泰子

阿弥陀様を通しての繋がり、新たな交流が生まれました。

幼い頃に主人は、祖母に連れられて法話を聞きにお寺へよく行っていたそうです。もちろん、主人の記憶にほとんど残っていないようですが。

祖母は、主人の実家へ行くといつもよく働いていました。明るくおしゃべりしたり、巻き寿司の作り方や魚のさばき方などを新米主婦の私にとても優しく教えてくれたりしました。年齢はとても離れているのにそんなことを感じさせないほど話題も豊富な方でした。私が子育てや介護に忙しくなり、祖母も歳を重ね、会うことも少なくなりましたがお便りは欠かしませんでした。

時は流れ、お世話になつた方々や両親もお浄土へ旅立ち、私も時間に余裕ができるようになりました。気がつけば、自然と祖母が通い慣れたお寺、信行寺に足が向くようになつていきました。ヨガ、写経、法話会、研修旅行と数々の行事に参加させていただき、

そんななかでさらに仏教観を学び、日常とは異なる時間から精神的な安らぎを感じ、自然とお仏壇に向かい『なもあみだぶつ』がこぼれてきます。今までの人生、いろいろな出来事がありました。それでも有り難いことに、こうなればいいなあと思つていたことが実現してきているよう思います。

これからも前向きにひたすら、阿弥陀様を思い、お浄土に旅立たれた近しい方々を偲び、いつか私もお浄土へ参つたならば信仰の志を与えてくださつた祖母に報告したいと思つております。

下の写真は、私が信行寺の写経で書いた用紙をパネルに貼り付けたものです。

写経は毎月第二月曜日です。皆さんも一緒に参加しませんか。



「これはなにご」とぞ

住職

親鸞聖人の伴侣、惠信尼さまのお手紙（惠信尼消息）には親鸞聖人の御往生の際に末娘の覚信尼さまに宛てた回想録のようなエピソードがあります。

親鸞聖人五十九歳の時に高熱と頭痛で寝込まれて四日目の明け方に寝言を言われるので、惠信尼さまがどうされたのですかと尋ねると、寝込んで二日目から無量寿經をずっと読み続けていたとおっしゃいます。目を閉じれば経典の文字が光輝いてはつきり見える。思い起こせば十八年前に越後から関東に向かう途中で飢饉に苦しむ農村の人たちの要望に応えて浄土三部經を千回読もうとされたことがありました。比叡山など当時の仏教では祈祷のために経典を読誦するということは一般的なことでした。苦しむ人々の為にと思い読み始めたのですが、四、五日してから「これはなにごとぞ」これは一体何をしているのか、と気づかれたそうです。

南無阿弥陀仏のお念佛の他に何の不足があつて経典を千回も読もうとしたのか。阿弥陀様の他力の

前では自分の努力や計らいは不要であることを理解しているつもりであつても、まだ自力の心が残つていたのか。人間の執着の心、自力の心はよくよく考えて気を付けていなければならぬと思い直し、読むのをやめられたのでした。

自力という人間のはからいを一切まじえず、ただただ念佛して阿弥陀様に救われていくのが親鸞聖人の歩まれた他力念佛の道。しかしながら、その親鸞聖人であっても拭い去るのが難しいほどに自力根性を持つているのが私たち人間であります。

一般的な人間感情からすれば、困っている人に対して何か手助けをしてあげるのは親切な行為でありますし、飢饉など人間の努力ではどうしようもない苦しみに対して、僧侶として何かできることはないかと思われて経典読誦ということをするのは、もつともなことのように思います。

しかし、よく考えますと因果の道理に合わぬ人間の慢心ともいえる行為であり、親鸞聖人の他力念佛に対する宗教的純粹性がよく伝わるエピソードだと思います。

法語カレンダー

今回は、本願寺出版社の法語カレンダー、七月の法語の説明をします。深川倫雄さんの言葉です。



行いと言葉の背後に

世間があるか
如來があるか

ません。その煩惱から生じた苦しみに人間はまた悩み、思索と反省を繰り返します。また、煩惱から苦しみが生じていることに気づかない人にとっては、他者によって苦しみが生じているものと思い込み原因をすり替えてしまいます。

世間とは、自分中心の考え方であり、不安定な迷いの世界の現象ともいえます。

みなさんも日々の行いや言つてしまつたことを後からあんなことしなければよかつた、あんな言い方しなければよかつたと後悔したことがあるのではないかでしょくか。

一方、如来さま（仏さま）の考えは真実の世界であり、世間を超えた視点です。それを理解することが困難である私達です。しかし、日々の言動を省みる機会をいただく時に、阿弥陀如来に出遇えた喜びの中から出てきたことなのか、煩惱からうまれたことなのかを自身に問い合わせることが大切なではないでしょうか。仏さまの真実の見抜かれた世界に触れることで私達は安らかな心を得ることができます。

人間は愚痴を言つたり、腹を立てたりします。感情が高ぶり、声を荒げてしまいます。仏教では根本的な煩惱として三毒（愚痴、怒り、貪欲）があります。三毒は私達の煩惱で容易に取り除くことができ

る。例えば、つまずいた時に「腹を立てるだけの人」とそれを縁にして「さとる人」がいます。世間の考え方を中心に生きるか、如來の見られた世界を生きるか、どちらにしますか？

日頃の疑問を考えよう

Q

お寺の名前の前に〇〇山といっていますが、どんな意味があるのですか？

A

それは、「山号」といいます。「山号」はお寺の名前（寺号）の上に冠する称号です。もとは平安時代に伝教大師が比叡山に天台宗を開かれ延暦寺を建立、また、弘法大師は高野山に真言宗を開かれて金剛峰寺を建立されました。

その後、同じようにお寺の多くは山上に建てられるようになつたので「山号」をつけるようになります。寺名より山名の方が一般人に知られているからでしょう。鎌倉時代以降は、禅宗の影響を受けて山中でなく平地に建立されたお寺でも「山号」を付ける風習が広まりました。お寺の所在する山名ではなく、所在地の名称、由緒による名称、あるいはお経の言葉から選んで「山号」にしました。

山号を付けていないお寺もあります。東本願寺（大谷派）には、山号がありません。

西本願寺は、龍谷山本願寺という山号があります。この「龍谷」の起源は、本願寺の発祥の地（お堂・

お墓）がオオタニという地名を表している文字なのです。すでに、今は使わない漢字なのですが、左側に「谷」と書いてへんとします。そして右側のツク（谷と龍）と横に並べて書いて、ひとつの文字だつたわけです。その一文字を「オオタニ」と昔は呼んでいて、地名だつたのです。本来であれば、谷龍（コクリュウ）ですが、並びを変えたのでしょうか。

Q

信行寺には、山号があるのですか？

A

信行寺の「山号」は「護法山」といいます。これはお釈迦様の説かれました「大無量寿経」のことばです。菩薩さまが決意を述べられて「嚴護法城開闡法門」（念仏を伝える法の城を護りぬき、仏法の教えを広める）と仰せられます。本堂の正面入口の上に「護法城」の扁額が掲げてあります。「山」ではなくて「城」のままにして、信行寺の役目がここにあることを表しています。



信行寺行事予定とご案内



◆本堂納骨お盆法要

八月十六日（金）午後二時～

◆夏期特別法座

八月十八日（日）十一時～十五時

信行寺本堂・礼拝堂にて、昼食をはさんで行います。ご希望の方はお寺に問い合わせの上、申し込み下さい。

◆秋の彼岸法要

九月二十八日（土）午後二時～住職

二十九日（日）午後二時～前住職

◆西大谷納骨参拝

十月二十日（日）

納骨・参拝を希望される方は、バスで一緒いたしますので、早めにお寺に問い合わせわせ、申し込み下さい。

編集委員より

「語り継ぐコトノハ ほのぼの RADIO」



前住職のお話の放送がはじまりました。（スマートフォン等から聞けます）第一回目は前住職の生い立ちから始まります。在家で生を受けられた前住職を、ご両親は最初からお坊さんにしてようと強い思いで育てられたそうです。やがて京都の龍谷大学へと出立する冬の夜、荷造りした行李（こうり）を手押し車にのせて、お母様と一緒にバス停へと向かわれた

そうです。そこで最終バスを待つ間の寒くて長い時を過ごすおふたりの会話、心情、そしてバスが出発してからも見えなくなるまで見送っていたお母様のすがたや思いに、親の慈悲、如来の慈悲を具体的に知らしてもらつた、とお話をされています。静かでほのぼのとした気持ちで聞かせていただきました。令和六年四月一日より毎週月曜日の朝七時から配信されています。聞き逃しても何時でも何回でも繰り返し聞くことが出来ます。皆さんと一緒に貴重なお話を聞かせていただきましょう。

多田 清子

（グーグルなどで「語り継ぐコトノハ」と検索ください。

詳しく知りたい方はお寺に問い合わせ下さい。）